

一般質問通告書要旨

清新クラブ 5 番議員 高阪康彦

(質問事項 2 問目) 将来を見据えた町行政を

将来を見据える為には先ず現在と過去を考える事が必要です。今は歴史的に 21 世紀初頭に当たります。20 世紀は物の時代 (ハード) といわれ、これに対し 21 世紀は人の時代 (ソフト) だと云われる。大量生産、大量消費の時代から、手作りの気持ちの入ったものが尊ばれる時代に入った。行政もいわゆる箱物行政から、環境、福祉、介護、など、人の行政に変わってきています。(思いやりの行政) 経済ではいわゆる右肩上がりの成長から安定成長の時代に入りました。しかし、価格破壊によるデフレの進行。流通革命、構造改革、リストラクチュアリング等により、現実には長期不況が続き住民は先の見えない日々を、じっと我慢をしているのが実情です。

そして、価値観が大きく変わってきました。学歴主義、終身雇用は見直され、年俸制など能力主義になり、個人主義が高まってきました。その結果、情、おくゆかしさ、思いやりと云った日本人の気質・文化までも大きく変わってきた。

又、地方の時代と云われる時代になりました。道州制が論じられ、国は防衛と外交に専念して (いわゆる小さな政府)、その他の権限は地方に移譲する。地方は地方独自の条例と税体系が出来る事となる。そして、それを活用して、それぞれの地方が独自のカラーを出して競争して、経済効果を上げることにより、雇用の創出ができます。又、税の効果的な再分配により、新しい産業が生まれ、景気が回復します。この様に考えていくと、良い、悪いに拘わらず、地方の合併は、避けて通れなくなると思います。(スケールメリットが必要)

現在は新しい物に生まれ変わっていく、明治維新にも匹敵する激動の時代だと思います。

このような時期に行政はどう対応をしていくのかを、真剣に考えなければならない。

先ず、現実には合併問題がある。飛島村が 4 町村の合併から、離脱を表明したが、当蟹江町はどのような対処をされるのかを質問します。

合併をするということは、行政のリストラと考えても良いと思いますので、蟹江町役場の職員総数、採用について以下の質問をします。

職員の採用人数、採用の仕方、決定方法 具体的に

又、不景気が続くとうとう安定感のある公務員に対して、厳しい目が注がれる。最近、役所の対応が良くなったと云う話を聞きますが、不景気であっても、なくても、そういわれるのは当たり前だと思いますので、町はどのような職員教育を行っているのか、お尋ねを致します。これは優秀な職員を育てるためにも必要なことです。

職員教育の現状